

Fujitsu Workstation CELSIUS

製品ガイド

(共通編)

本書をお読みになる前に

1 アプリ

2 BIOS

3 トラブル
シューティング

目次

本書をお読みになる前に	4
安全にお使いいただくために	4
本書の表記	4
Windowsの操作	6
BIOSやドライバーのアップデートについて	7
商標および著作権について	8
第1章 アプリ	
1.1 アプリの紹介	10
1.1.1 一覧表の見かた	10
1.1.2 セキュリティ関連のアプリ	11
1.1.3 サポート関連のアプリ	11
1.1.4 ユーティリティ	12
1.1.5 Office製品	13
1.2 インストール	14
1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール	14
1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール	16
1.2.3 「i-フィルター」のインストール	16
1.2.4 「AuthConductor Client Basic」のインストール	16
1.2.5 Office製品のインストール	17
1.3 アンインストール	18
1.3.1 注意事項	18
1.3.2 アンインストール方法	18
第2章 BIOS	
2.1 BIOSセットアップ	20
2.2 BIOSセットアップの操作のしかた	21
2.2.1 BIOSセットアップを起動する	21
2.2.2 BIOSセットアップ画面	21
2.2.3 BIOSセットアップメニュー	22
2.2.4 BIOSセットアップを終了する	22
2.2.5 起動メニューを使用する	23
2.3 設定事例集	24
2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う	24
2.3.2 起動デバイスを変更する	28
2.3.3 セキュリティチップの設定を変更する	28
2.3.4 セキュアブートの設定を変更する	29
2.3.5 パスワードの代わりに指紋認証を使う	30
2.3.6 パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う	31

2.3.7	電源オフUSB充電機能の設定を変更する	31
2.3.8	Wake on LANを有効にする	32
2.3.9	イベントログを確認する	33
2.3.10	イベントログを消去する	33
2.3.11	ご購入時の設定に戻す	34
2.4	ME BIOS Extension	35
2.4.1	初期パスワードを変更する	36
2.4.2	MEセットアップを起動する	38
2.4.3	MEセットアップを終了する	40
2.4.4	メニュー詳細	40
第3章	トラブルシューティング	
3.1	トラブル発生時の基本操作	44
3.1.1	状況を確認する	44
3.1.2	以前の状態に戻す	45
3.1.3	トラブルシューティングで調べる	45
3.1.4	インターネットで調べる	45
3.1.5	診断プログラムを使用する	45
3.1.6	サポートの窓口にご相談する	47
3.2	よくあるトラブルと解決方法	48
3.2.1	トラブル一覧	48
3.2.2	起動・終了時のトラブル	50
3.2.3	Windows・アプリ関連のトラブル	54
3.2.4	ハードウェア関連のトラブル	55
3.2.5	エラーメッセージ一覧	67
3.3	それでも解決できないときは	70
3.3.1	お問い合わせ先	70
廃棄・リサイクル		71
付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意		72
ワークステーションの廃棄・譲渡時の		
フラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意		72
データ消去		73
付録2 Windowsの新規インストール		77
注意事項		77
新規インストールの準備		77
新規インストール手順		78

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

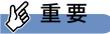
本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2023年6月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、ご購入元へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】 キー、【Shift】 + 【↑】 キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイス マネージャー」をクリックする操作

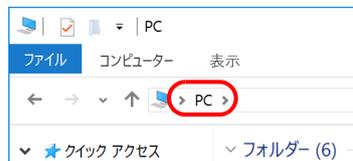
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



「PC」ウィンドウ



「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
リカバリ起動ディスク
ドライバーズディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。

本ワークステーションに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。

あらかじめご了承ください。

なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 「ポートリプリケータ」の記載について

本文中に記載されている「ポートリプリケータ」は、ワークステーション本体下面のポートリプリケータ接続コネクタに取り付けるタイプです。

また、別売のポートリプリケータ（Thunderbolt™ 4接続）に対応しています。

別売のポートリプリケータ（Thunderbolt™ 4接続）については、ポートリプリケータに添付のマニュアルをご覧ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

□ ワークステーション品名

品名	本文中の表記		
CELSIUS H7613	H7613	Hシリーズ	本ワークステーション/ ワークステーション本体
CELSIUS U7413	U7413	Uシリーズ	

□ 製品名称

製品名称	本文中の表記	
Windows 11 Pro 64ビット版	Windows 11	Windows
Windows 11 Pro 64ビット版 (Windows 10 Pro プリインストールにダウングレード)	Windows 10	
Microsoft Office Home & Business 2021	Office Home & Business 2021	Office
Microsoft Office Personal 2021	Office Personal 2021	
Bluetooth®	Bluetooth	
Fujitsu Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic	
FUJITSU Software Portshutter Premium	Portshutter Premium	
FUJITSU Software パソコン乗換ガイド	パソコン乗換ガイド	
i-フィルター® for マルチデバイス	i-フィルター	
マカフィー® リブセーフ™	マカフィー リブセーフ	

Windows の操作

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

□ Windows 11 の場合

- 1 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。

□ Windows 10 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ Windowsのヒント

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。

Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

□ Windows 11の場合

1 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「ヒント」をクリックします。

□ Windows 10の場合

1 「スタート」ボタン→「ヒント」をクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本ワークステーションには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本ワークステーションをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションには、インターネットを經由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知する「アップデートナビ」が搭載されています。「1.1.3 サポート関連のアプリ」（→P.11）をご覧ください。アップデートナビを有効にしてお使いください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel vPro、Thunderbolt、Thunderbolt ロゴは、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

InsydeH2O は Insyde Software の登録商標です。

MaxxAudio は、Waves Audio Ltd. の米国およびその他の国における登録商標です。

McAfee、マカフィー、McAfee のロゴ、McAfee LiveSafe、およびマカフィー リブセーフは、米国法人 McAfee, LLC もしくは米国の国内外にあるその関係会社の商標または登録商標です。

SDXC ロゴは SD-3C, LLC. の商標です。 

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2023

1

第1章

アプリ

本ワークステーションにプリインストール（添付）されているアプリの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

1.1 アプリの紹介	10
1.2 インストール	14
1.3 アンインストール	18

1.1 アプリの紹介

ここでは、本ワークステーションにプリインストールまたは添付されているアプリの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているアプリは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバズディスク」などに格納されています。

また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするアプリもあります。

各アプリの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- アプリの使い方
ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をクリックしたりすることで表示されます。
- インストール方法
「1.2 インストール」(→P.14)をご覧ください。
- カスタムメイドのアプリおよび一部のアプリ
インターネット上のマニュアル (<https://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/>) の機能別のマニュアルをご覧ください。

1.1.1 一覧表の見かた

アプリ一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

ご購入時のアプリの提供形態について

- : ご購入時にインストール済み
- ◆ : ご購入時にインストール済み (「ドライバズディスク」にも格納されています)
- ◇ : Cドライブに格納 (ご購入時はインストールされていません)
- ▲ : 「ドライバズディスク」に格納 (ご購入時はインストールされていません)
- : 起動メニューより選択 (→P.23)

「ドライバズディスク」は、本ワークステーションのフラッシュメモリディスクに格納されています。

ディスクがお手元がない場合は、フラッシュメモリディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

1.1.2 セキュリティ関連のアプリ

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.10）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
AuthConductor Client Basic	次のセキュリティデバイスなどを使用するためのアプリです。 ・指紋センサー ・手のひら静脈センサー ・Webカメラ	▲
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするアプリです。有害サイトへアクセスしようとする、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 本アプリは30日間のお試し版です。試用期間中、サポートします。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から30日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇注
Portshutter Premium	USBポート（Webカメラなど内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	▲
マカフィー リブセーフ	コンピューターウイルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から60日間です。 インストールの方法については「1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール」（→P.16）を、その他のお問い合わせは「3.3.1 お問い合わせ先」（→P.70）をご覧ください。	◇

注：「i-フィルター」は「ドライバースディスク」にも格納されていますが、Cドライブに格納されたデータからインストールしてください。（→P.16）

1.1.3 サポート関連のアプリ

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.10）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
アップデートナビ	インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知します。 アップデートナビを有効にするために、一度アプリを起動し、自動更新通知・常駐設定で「自動更新通知をする」を選択してください。 その後、ドライバーやアプリが更新されると、通知が表示されます。	●注
パソコン乗換ガイド	今までお使いになっていたワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行できます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「3.1.5 診断プログラムを使用する」（→P.45）をご覧ください。	■
モデル情報表示ユーティリティ	本ワークステーションの情報（型名／製造番号／カスタムメイド番号）を確認することができます。	◆

注：本アプリは「ドライバースディスク」には格納されていません。
再インストールする場合は、ストアから本アプリをインストールする必要があります。
※ストアのURLやインストール時の注意については、「ドライバースディスク」内にある「Readme.txt」をご確認ください。

1.1.4 ユーティリティ

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.10）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Camera Effect Setting	AIカメラエフェクター用のアプリです。	●注
Function Key Lock Utility	キーボードのファンクションキーの動作を、ファンクションキーにするか、ホットキーにするかを設定するアプリです。	●注
Function Manager	ワークステーションのハードウェア設定を変更することができるアプリです。	●注
Plugfree NETWORK	<p>対象</p> <p>Windows 10搭載機種</p> <p>無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するアプリです。「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、ワークステーションを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。詳しくは、「Plugfree NETWORK」のヘルプをご覧ください。</p>	▲
Pointing Device Utility for Precision Touchpad	キーボードで【Fn】キーを押しながら  の刻印のあるキーを押して、フラットポイントのオン/オフを切り替えるアプリです。【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」―「キーボード」をご覧ください。	●注
Realtek Audio Console	接続したオーディオ端子を切り替えたり、音量を調節したりします。	●注
Standby Energy Saver	設定することで、ワークステーションの節電や、起動時に速やかに業務を開始することができます。	●注
Thunderbolt コントロール・センター	<p>対象</p> <p>H7613、U7413はWindows 10搭載機種のみ</p> <p>Thunderbolt™ポートを正しく機能するためのアプリです。</p>	●注
USB Type-C 充電・給電 ユーティリティ	USB Type-Cコネクタからの充電、給電の設定(切り替え)を行うアプリです。	●注
Waves MaxxAudio	ワークステーションに内蔵されているスピーカーの音質を調節します。	●注
インテル® グラフィックス・ コマンド・センター	ディスプレイの解像度の変更や、マルチディスプレイ機能の設定を行います。 ・「ドライバズディスク」内の「readme.txt」については、「インテル(R) ディスプレイドライバー 64ビット版」に格納されています。	●注
静音ユーティリティ	ワークステーションの内の冷却ファンを調整し、音を静かにできるユーティリティです。 ・ 静音モード：CPUパフォーマンスを制御して発熱を抑え、冷却ファンをゆっくり回転します。 ・ 通常モード：CPUパフォーマンスを優先します。	●注
ディスク作成ユーティリティ	リカバリディスクを作成するときに使用するアプリです。	◆
ドライバズディスク検索	ドライバーやアプリをインストールするときに使用するアプリです。	◆
バッテリーユーティリティ	バッテリーの情報を表示したり、充電モードの変更やECO Sleep機能を設定したりします。機種によって利用できる機能が異なります。詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「バッテリー」をご覧ください。	●注

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.10）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
ピークシフト設定	設定した時間にあわせて、ACアダプタ運用とバッテリー運用を切り替えることができます。ピークシフト設定の設定方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「ピークシフト」をご覧ください。	●注
マイクミュートユーティリティ	キーボードで【Fn】キーを押しながら[ >]の刻印のあるキーを押して、マイクのオン/オフを切り替えるアプリです。 【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」－「キーボード」をご覧ください。	●注
ワンタッチボタン設定	ワークステーションの機能を、ワンタッチで呼び出す設定ができます。ご購入時は、キーボードで【Fn】キーを押しながら[ >]の刻印のあるキーを押すとバッテリー設定の画面を表示する設定になっています。 【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。 また、ワンタッチボタン設定をお使いになるには、次のアプリが必要になります。 ・ワンタッチボタン設定－ボタン構成注	●注

注：本アプリは「ドライバズディスク」には格納されていません。
再インストールする場合は、ストアから本アプリをインストールする必要があります。
※ストアのURLやインストール時の注意については、「ドライバズディスク」内にある「Readme.txt」をご確認ください。

1.1.5 Office製品

カスタムメイドで選択したアプリをご覧ください。

ご購入時にOfficeはインストールされています。Officeをお使いになる場合は、ライセンス認証が必要です。詳しくは、「1.2.5 Office製品のインストール」（→P.17）またはアプリに添付のマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ リカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。
マイクロソフト社のホームページ（<https://www.office.com/jppipcsetup/>）からOffice製品をダウンロードしてください。

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.10）をご覧ください。

名称	含まれるアプリ	概要／提供形態	
Microsoft Office Home & Business 2021	Word	ワープロ	●
	Excel	表計算	
	Outlook	情報管理	
	PowerPoint	プレゼンテーション	
	OneNote	デジタルノート	
Microsoft Office Personal 2021	Word	ワープロ	●
	Excel	表計算	
	Outlook	情報管理	
	OneNote ^注	デジタルノート	

注：Windows 11のみ、フリーライセンス版のOneNoteが含まれます。

1.2 インストール

インストール方法はお使いになるアプリにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、アプリに添付のマニュアルなどを必ずご確認くださいのうえ、手順に従ってインストールしてください。

重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- ▶ 管理者アカウントでWindowsにサインインしてからインストールしてください。

1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

重要

- ▶ 本ワークステーションにプリインストールされているアプリやドライバーの一部は、ドライバーズディスク検索に格納されていないものもあります。
再インストールする場合には、ストアからインストールする必要があります。
各アプリやドライバーのフォルダに格納されている「Readme.txt」に、ストアのURLやインストール時の注意について記載していますので、必ずご確認ください。

「ドライバーズディスク」^(注)とフラッシュメモリディスクに格納されているアプリやドライバーは、「ドライバーズディスク検索」からインストールできます。

- 注：・「i-フィルター」をインストールする場合は、「1.2.3 「i-フィルター」のインストール」(→P.16)をご覧ください。
・「AuthConductor Client Basic」をお使いになるには、認証デバイスによりドライバーのインストールが必要になる場合があります。インストール方法については、必ず「1.2.4 「AuthConductor Client Basic」のインストール」(→P.16)をご覧ください。

重要

- ▶ Office製品は「ドライバーズディスク検索」からインストールできません。
「1.2.5 Office製品のインストール」(→P.17)をご覧ください。
- ▶ 「ドライバーズディスク」は、本ワークステーションのフラッシュメモリディスクに格納されています。
ディスクがお手元ない場合はフラッシュメモリディスクからディスクを作成してください。
作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ▶ ドライバーやアプリのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。なお、本ワークステーションに搭載されているすべてのドライバーやアプリが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

● ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- ▶ 画面右下にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
 3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

● フラッシュメモリディスクのデータからインストールする場合

1. 次の操作を行います。
 - ・ Windows 11の場合
 1. 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「ドライバーズディスク検索 (ハードディスク)」の順にクリックします。
 - ・ Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタン→「Fujitsu - ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索 (ハードディスク)」の順にクリックします。
2. メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするアプリを選択します。

「内容」に、インストールするアプリのフォルダーが表示されます。

6 「インストール方法の確認」をクリックします。

Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「表示可能なファイルがありません。」というメッセージが表示された場合
「内容」に表示されている「readme」から始まるファイルをダブルクリックして、ファイルを開いてください。

7 テキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。

テキストファイルの手順に従って、ドライバをインストールしてください。

●Portshutter Premiumをインストールする場合

デバイス制御、ネットワーク制御でインストール方法が異なります。

それぞれのアプリの説明書をご覧になりインストールしてください。

- ・ デバイス制御
「PortshutterPremiumDevice」フォルダの「操作マニュアル.pdf」
- ・ ネットワーク制御
「PortshutterPremiumNetwork」フォルダの「操作マニュアル.pdf」

ドライバのインストール完了後、本ワークステーションが再起動します。

1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール

POINT

- ▶ 「マカフィー リブセーフ」をインストールしていると、お使いのアプリによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

1 次のファイルをご覧になり、インストールします。

C:\¥Fujitsu¥Bundle¥MLS¥Readme.txt

2 インストールが完了したら本ワークステーションを再起動します。

重要

- ▶ ウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー リブセーフ」のヘルプをご覧ください。
- ▶ ウイルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

1.2.3 「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:\¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

1.2.4 「AuthConductor Client Basic」のインストール

「AuthConductor Client Basic」は「ドライバズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のアプリとは異なります。「AuthConductor Client Basic」のインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

1.2.5 Office製品のインストール

重要

- ▶ インターネットに接続して操作してください。

1 次の操作を行います。

- Windows 11の場合

1. 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Word」の順にクリックします。

- Windows 10の場合

1. 「スタート」ボタン→「Word」の順にクリックします。

2 この後は、画面に従って操作します。

- ・ 使用許諾契約の同意
ライセンス条項を表示して必ずお読みください。

Office製品のご利用は「Officeの更新」を適用して、常に最新の状態に更新してください。

重要

- ▶ ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを実行した場合、Office製品はインストールされません。マイクロソフト社のホームページからOffice製品をダウンロードしてください。インストール方法については、次のホームページの「PCに搭載されたOffice 2021（中小企業向け）」をご覧ください。

<https://www.office.com/jppipcsetup/>

- ・ U7413の場合

「プロダクトキー」の項目をご覧ください。

- ・ H7613の場合

「プロダクトキーなし^(注)」の項目をご覧ください。

注：H7613のワークステーションに搭載されているOffice製品は、デジタルライセンスによって「ライセンス認証」を行うため、プロダクトキーは添付されていません。

- ▶ オフライン（インターネットに接続できない場合）での再インストールはサポートしていません。

1.3 アンインストール

1.3.1 注意事項

アプリをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
このDLLファイルを削除すると、他のアプリが正常に動作しなくなることがあります。

アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

1.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
アプリにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
次の手順で削除することができます。
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
 2. 「プログラム」→「プログラムと機能」の順にクリックします。
「プログラムと機能」が表示されます。
 3. 削除したいアプリを右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」を選択します。

アンインストール方法はアプリによって異なります。詳しくは、各アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- ▶ 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールするときは、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
 - ・ Webカメラ
 - ・ 指紋センサー
 - ・ 手のひら静脈センサー
- ▶ 「AuthConductor Client Basic」のアンインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

2

第2章

BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

2.1 BIOS セットアップ	20
2.2 BIOS セットアップの操作のしかた	21
2.3 設定事例集	24
2.4 ME BIOS Extension	35

2.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやフラッシュメモリディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワードを設定するとき
- 起動デバイスを変更するとき
- セキュリティチップの設定を変更するとき
- セキュアブートの設定を変更するとき
- AuthConductor Client BasicのBIOS連携を使用するとき（指紋センサー／手のひら静脈センサー搭載機種）
- Wake on LANの設定を変更するとき
- 起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定は、必ず電源を完全に切ってから行ってください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

2.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

2.2.1 BIOSセットアップを起動する

- 1 【F2】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。
BIOSセットアップ画面が表示されます。
パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.26）してください。
指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。

2.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。

1 **メニューバー**
メニュー名が表示されます。

2 **項目ヘルプ**
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

3 **設定フィールド**
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

4 **キー一覧**
設定時に使うキーの一覧です。

2.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。

本ワークステーションのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

2.2.4 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する場合

- 1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。
- 2 次のいずれかの項目を選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・「変更を保存して終了する」
 - ・「変更を保存して電源を切る」確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。
「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動します。
「変更を保存して電源を切る」を選択した場合はワークステーションの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する場合

- 1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。
- 2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

- 3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

重要

- ▶ 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

2.2.5 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本ワークステーションを起動します。「リカバリ起動ディスク」から本ワークステーションを起動する場合などに使用します。

重要

- ▶ BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。

起動メニューが表示されます。

パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力 (→P.26) してください。

指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド (機種別編)』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ 【Tab】キーを押して、「起動メニュー」と「アプリケーションメニュー」の表示を切り替えることができます。

3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。

選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

2.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

- BIOSのパスワード機能を使う (→P.24)
- 起動デバイスを変更する (→P.28)
- セキュリティチップの設定を変更する (→P.28)
- セキュアブートの設定を変更する (→P.29)
- パスワードの代わりに指紋認証を使う (→P.30)
- パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う (→P.31)
- 電源オフUSB充電機能の設定を変更する (→P.31)
- Wake on LANを有効にする (→P.32)
- イベントログを確認する (→P.33)
- イベントログを消去する (→P.33)
- ご購入時の設定に戻す (→P.34)

2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

ハードディスクパスワード

本ワークステーションのフラッシュメモリディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピュータで使用したりできないようにするためのパスワードです。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本ワークステーションを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶ 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- ▶ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク搭載機種の場合
「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、全データの暗号化および復号を自動的に行いますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことはできません。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本ワークステーションの電源が入っている場合は、電源を切ります。
電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.21）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
 - ・「管理者用パスワード設定」
 - ・「ユーザー用パスワード設定」
- ハードディスクパスワードを設定する場合
 - ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
 - ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ▶ ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、ハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

重要

- ▶ パスワードには、アルファベットと数字、記号および半角スペースを使用できます。大文字、小文字は区別されます。記号を入力する場合は、次の表をご覧ください。（表にない記号は使用できません。）
 - ・ キーボードの刻印どおりに入力します。

入力する記号	-	;	,	.	/
--------	---	---	---	---	---

- ・ 【Shift】キーを押しながら対応するキーを押します。

入力したい記号	!	#	\$	%	<	>	?
対応するキー	1	3	4	5	,	.	/

- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ▶ 数字だけでなく英字を入れるなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- ▶ BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- ▶ 本ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- ▶ 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.22）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源ボタンを10秒以上押し続けて本ワークステーションの電源を切ってください。電源が切れた後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
 - ・ BIOSセットアップを起動するとき
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき
 - ・ 休止状態からレジュームするとき次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

パスワードを入力して下さい。

- ハードディスクパスワード
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

ドライブnのハードディスクはロックされています。

パスワードを入力して下さい。 []

POINT

- ▶ ハードディスク用マスターパスワードでは、本ワークステーションを起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもフラッシュメモリディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

2.3.2 起動デバイスを変更する

本ワークステーションの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。

「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。

変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

- 1 「起動」メニューを選択します。
- 2 カーソルキーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。
- 3 次のキーを使用して、優先順位を変更します。

【+】キー	選択したデバイスを1つ上に移動します。
【-】キー	選択したデバイスを1つ下に移動します。
【Shift】+【1】キー	選択したデバイスを有効または無効に設定します。

- 4 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

2.3.3 セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップを有効／無効にする

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

POINT

- ▶ セキュリティチップの設定変更は、再起動後に反映されます。

■ セキュリティチップをクリアする

重要

- ▶ セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。
セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認画面が表示されます。
- 4 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

POINT

- ▶ セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ アプリからの変更を反映する

Windows上のアプリを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本ワークステーションの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れるまたは再起動します。
起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。
- 2 【Y】キーを押します。
セキュリティチップの状態が変更されます。

2.3.4 セキュアブートの設定を変更する

対象 H7613

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「セキュアブート設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュアブート機能」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

2.3.5 パスワードの代わりに指紋認証を使う

対象 指紋センサー搭載機種

パスワードを入力する代わりに、指紋センサーを使用して本ワークステーションの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

また、お使いのモデルにより設定手順が異なりますので、ご注意ください。

POINT

- ▶ ハードディスクパスワードの代わりに指紋認証を使用することはできません。

■ Secured-core PC非対応モデルの場合

- 1 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
「2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.24)
- 2 「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。
- 3 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)
- 4 AuthConductor Client Basicで指紋の登録と設定を行います。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

■ Secured-core PC対応モデルの場合

- 1 Windows Helloの指紋認証機能で、指紋の登録と設定を行います。
詳しくは、『製品ガイド(機種別編)』の「2章 取り扱い」—「Windows Hello」をご覧ください。
- 2 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
「2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.24)
- 3 「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。
- 4 「指紋認証」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「指紋認証」を「使用する」に設定します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

重要

- ▶ 「指紋認証方式」を「指紋認証のみ」に設定すると、指紋認証ができない状態(例: 認証デバイスが故障して使えない、けがで指紋認証できないなど)になった場合に、BIOS認証を成功する手段がなくなるためワークステーションを起動できなくなります。
- ▶ 「指紋認証データの消去」を行うと、Windows Helloの指紋認識の設定も消去されます。「指紋認証」を「使用しない」に設定する場合でも、「指紋認証データの消去」は行わないでください。

2.3.6 パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う

対象 手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサー搭載機種の場合、パスワードを入力する代わりに、手のひら静脈センサーを使用して本ワークステーションの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

POINT

▶ ハードディスクパスワードの代わりに手のひら静脈認証を使用することはできません。

- 1 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
「2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.24)
- 2 「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。
- 3 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)
- 4 AuthConductor Client Basicで手のひら静脈の登録と設定を行います。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

2.3.7 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

対象 電源オフUSB充電機能対応USBコネクタ搭載機種

電源オフUSB充電機能とは、ワークステーションが電源オフ状態や省電力状態の場合でも、USB充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

ご購入時は無効に設定されています。

電源オフUSB充電機能については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源オフUSB充電機能」もあわせてご覧ください。

ここでは、電源オフUSB充電機能の設定を変更する方法について説明します。

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「USB充電設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「パソコン電源オフ時の動作」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 設定したい項目を選択し、【Enter】キーを押します。

設定項目	説明
充電しない	電源オフUSB充電機能が無効になります。
充電する (AC/バッテリー)	ACアダプタの接続時、バッテリー駆動時ともに、電源オフUSB充電機能が有効になります。 バッテリー残量が12%以下になると、電源オフUSB充電は停止します。 ACアダプタを接続すると、電源オフUSB充電を再開します。
充電する (ACのみ)	ワークステーションにACアダプタが接続されているときに、電源オフUSB充電機能が有効になります。 ACアダプタが接続されていない場合は、機能が無効になります。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

2.3.8 Wake on LANを有効にする

Wake on LAN (WoL機能) は、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動する機能です。

本ワークステーションが電源オフ状態のときに、起動することができます。

 **重要**

- ▶ 電源を切る方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ 「MACアドレスパススルー」機能を使用している場合
WoL機能を使用するには、「MACアドレスパススルー」機能は使用しないでください。
「MACアドレスパススルー」機能については『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「有線LAN」をご覧ください。

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

Windowsが起動します。続けて次の操作を行います。

6 「コントロールパネル」ウィンドウ (→P.6) を表示します。

7 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。

「電源オプション」が表示されます。

8 ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。

- 9 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 10 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする (推奨)」のチェックを外します。
- 11 「変更の保存」をクリックします。

2.3.9 イベントログを確認する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「3.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.67)の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

2.3.10 イベントログを消去する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「次回起動時に消去します」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

2.3.11 ご購入時の設定に戻す

- 1 「終了」メニューを選択します。
- 2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
一部を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
変更されない項目については、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「終了」メニュー
「標準設定値を読み込む」備考欄「次の項目は対象外」をご覧ください。
- 4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.22)

2.4 ME BIOS Extension

対象 インテル® vPro® プラットフォーム対応機種

POINT

- ▶ 「インテル® vPro® プラットフォーム」に対応しているかは、『製品ガイド（機種別編）』の「5章仕様」―「本体仕様」をご覧ください。

お使いのワークステーションがインテル® vPro® プラットフォーム対応の場合は、インテル® AMT機能などを提供するIntel® ME（Management Engine）BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本ワークステーションご購入時のパスワードのまましていると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

パスワードは第三者に推測されないように工夫してください。
パスワードの変更は、本書に記載している設定手順の他、USB プロビジョニング、リモートプロビジョニングでも行えます。

詳しくは、Intel® Setup and Configuration Software (Intel® SCS) のUser Guideでご確認ください。
URL : <https://www.intel.com/content/www/us/en/software/setup-configuration-software.html>

また、カスタムメイドプラスサービス (<https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/related/customplus/>) で、工場出荷時に設定が可能な場合もあります。

MEセットアップは、本ワークステーションにおいて動作確認済みの管理アプリを搭載している場合のみ、管理アプリのマニュアルに従って設定してください。

重要

- ▶ 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

2.4.1 初期パスワードを変更する

パスワードは、必ず変更してください。
ご購入時のパスワードのまましていると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

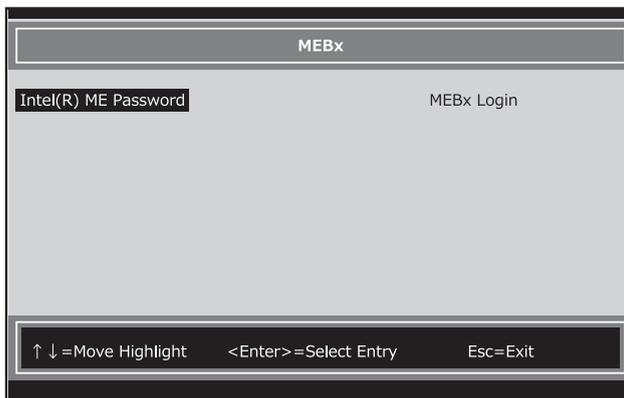
パスワードは第三者に推測されないように工夫してください。
パスワードの変更は、本書に記載している設定手順の他、USBプロビジョニング、リモートプロビジョニングでも行えます。

詳しくは、Intel® Setup and Configuration Software (Intel® SCS) のUser Guideでご確認ください。
URL : <https://www.intel.com/content/www/us/en/software/setup-configuration-software.html>

重要

- ▶ 変更したパスワードを忘れると ME セットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine 設定」の「Intel(R) ME 設定のクリア」でご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。

- 1 BIOSセットアップを起動します (→P.21)。
- 2 「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine 設定」を次のように設定します。
 1. 「Intel(R) AMT」を「使用する」に変更する。
 2. 「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押す。
確認のメッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「終了」メニューの「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
MEセットアップログイン画面が表示されます。



- 6 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。



7 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。

出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- ▶ 「Incorrect password Press ENTER to continue」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順6からやり直してください。
- ▶ パスワードを3回間違えると「Login attempts exceeded, System will reboot when user exits MEBx」と表示され、【Esc】キーを押すと本ワークステーションが再起動します。手順1からやり直してください。

8 「Please type in your new password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

- ・ 8文字以上32文字以下
- ・ 1文字以上の数字を含む
- ・ 1文字以上の特殊文字（例：@、\$、&）を含む
- ・ 1文字以上の小文字のアルファベットを含む
- ・ 1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- ▶ MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
 - ・ 次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	=	[]	'	\
対応するキー	^	@	[:]

- ・ 次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	()	_	+	{	}	:	"	
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[;	:]

- ▶ 「:」 「,」 「"」 は使用できません。また、「_」 および 「」 （スペース） は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

9 「Please confirm your new password」と表示されたら、手順8で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

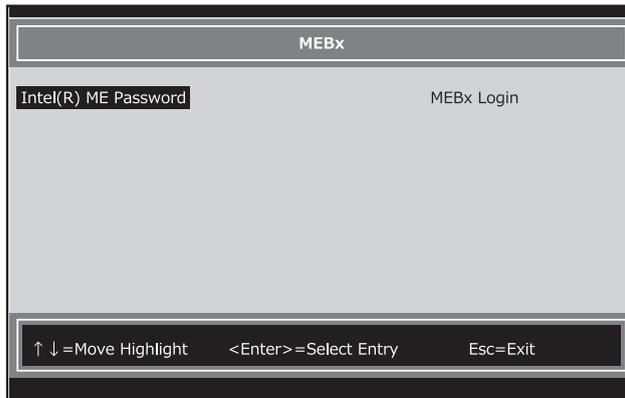
POINT

- ▶ 「Invalid Password - Try Again Press ENTER to continue」と表示された場合、新しいパスワードが手順8の条件を満たしていません。文字数と使用している文字を確認して、手順6からやり直してください。
- ▶ 「Passwords are not the same Press ENTER to continue」と表示された場合、手順8と手順9で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順6からやり直してください。

ここでMEセットアップを終了する場合は、「2.4.3 MEセットアップを終了する」(→P.40) をご覧になり、手順に従って終了してください。

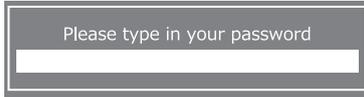
2.4.2 MEセットアップを起動する

- 1 BIOSセットアップを起動します（→P.21）。
- 2 「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine 設定」を次のように設定します。
 1. 「Intel(R) AMT」を「使用する」に変更する。
 2. 「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押す。
確認のメッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「終了」メニューの「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
MEセットアップログイン画面が表示されます。



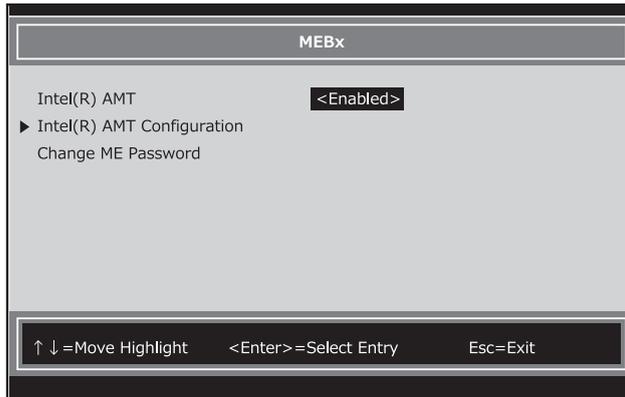
6 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。



7 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

MEセットアップ画面が表示されます。



 **重要**

- ▶ MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。パスワードの変更については、「2.4.1 初期パスワードを変更する」(→P.36)をご覧ください。

8 画面上部のメニューから ME BIOS Extension の設定を行います。

2.4.3 MEセットアップを終了する

- 1 「MEBx」を表示します。
「MEBx」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。
- 2 「MEBx」が表示されたら、【Esc】キーを押します。
- 3 「Changes have not saved. Save Changes and exit? Press 'Y' to save and exit, 'N' to discard and exit, 'ESC' to cancel.」と表示されたら、【Y】キーを押します。
MEセットアップが終了し、OSが起動します。
続けて変更したBIOSセットアップの設定を戻します。
- 4 ワークステーションの電源を切ります。
電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- 5 BIOSセットアップを起動します（→P.21）。
- 6 「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine 設定」を次のように設定します。
「Intel(R) AMT」を「使用しない」に変更する。
- 7 「終了」メニューの「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」を選択し、【Enter】キーを押します。

重要

- ▶ 手順4～7の操作は必ず行ってください。

2.4.4 メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。

■ 「Intel(R) AMT」メニュー

設定項目	備考
Intel(R) AMT <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Partially Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	<ul style="list-style-type: none">・ AMT機能を有効／部分的に無効／無効に設定します。・ 本機能を使用しない場合は「Disabled」に設定します。<ul style="list-style-type: none">- 「Disabled」設定時は、In-bandとOut-of-bandのすべてのAMTネットワークポートは無効になります^注。- 再度本項目を「Enabled」に設定すると、In-bandとOut-of-bandのすべてのAMTネットワークポートは有効になります。

注：OSからもリモートからもAMT装置として検出できなくなりますのでご注意ください。

■ 「Intel(R) AMT Configuration」 メニュー

設定項目	備考
Redirection features	
SOL <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	Serial Over LAN機能の有効/無効を設定します。
Storage Redirection <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	Storage Redirection機能の有効/無効を設定します。
KVM Feature Selection <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	KVM機能の有効/無効を設定します。
User Consent	
User Opt-in <input type="checkbox"/> None <input checked="" type="checkbox"/> KVM <input type="checkbox"/> ALL	リモートでセッション確立時のローカルユーザーの同意について、「不要」、「KVM機能を使用時のみ必要」、「すべての機能を使用時に必要」かを設定します。
Opt-in Configurable from Remote IT <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	リモートによるオプトイン機能の有効/無効を設定します。
Password Policy <input type="checkbox"/> Default Password Only <input type="checkbox"/> During Setup And Configuration <input checked="" type="checkbox"/> Anytime	パスワードポリシーについて、「既定のパスワードのみ」、「セットアップ中および構成中」、「随時」かを設定します。
Network Setup	MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Intel(R) ME Network Name Settings	
FQDN	AMT装置のFQDNを設定します。
Shared/Dedicated FQDN <input type="checkbox"/> Dedicated <input checked="" type="checkbox"/> Shared	MEのFQDNをホストのFQDNと共有するか、MEでのみ使用するかを設定します。
Dynamic DNS Update <input checked="" type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled	DDNSを使用しIPアドレスとFQDNをDNSに登録するか、あるいはFQDNに従い動くかを設定します。
TCP/IP Settings	
Wired LAN IPV4 Configuration	
DHCP Mode <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	DHCPによるIPV4アドレスの動的割り当ての有効/無効を設定します。
Network Access State ^{注1}	
Network Active	ネットワークアクセスを有効にし、MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Network Inactive	ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。
Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。

設定項目	備考
Remote Setup And Configuration	リモートでプロビジョン時の設定を行います。
Provisioning Server address	プロビジョニングサーバのアドレスをホスト名、IPv4またはIPv6アドレスで設定します。
Provisioning Server port number	<ul style="list-style-type: none"> プロビジョニングサーバのポート番号を設定します。 ご購入時は「9971」に設定されています。
Remote Configuration <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	<ul style="list-style-type: none"> リモートでプロビジョンを行うかどうかを設定します。 使用しない場合は「Disabled」に設定します。 「Disabled」に設定すると、「PKI DNS Suffix」、「Manage Certificates」のメニューは表示されません。
PKI DNS Suffix	PKI DNSサフィックスを設定します。
Manage Certificates	各証明書の設定、変更、参照を行います。
Activate Remote Configuration	リモート構成（機能）の有効化を行います。
Power Control ^{注2}	
ME ON in Host Sleep States <input type="checkbox"/> Mobile: ON in S0 <input checked="" type="checkbox"/> Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5(AC only)	<p>省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるAMT機能の有効／無効を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Mobile: ON in S0 本ワークステーションが動作状態のときにのみAMT機能が有効になります。 Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only) 本ワークステーションが動作状態、ACアダプタ接続時の省電力状態および電源オフの状態のときにAMT機能が有効になります。
Idle Timeout ^{注3} 1～65535	<ul style="list-style-type: none"> ご購入時は「15」に設定されています。 「ME ON in Host Sleep States」が「Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only)」のとき、本ワークステーションが省電力状態または電源オフに移行してからMEへのアクセスがない場合、MEが待機状態になるまでの時間を分単位で設定します。

注1：「Network Access State」の「Network Active」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。

注2：「Network Access State」の「Network Active」を実行した後、本メニュー設定は有効になります。

注3：本設定を変更すると一部の管理アプリで正常に動作しなくなる場合があります。管理アプリにて動作が確認できている場合のみ、管理アプリのマニュアルに従って設定してください。

■ 「Change ME Password」 メニュー

設定項目	備考
Change ME Password ^注	MEセットアップのパスワードを変更します。 パスワード入力画面でパスワードを入力後、「2.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.36）の手順8以降をご覧ください、パスワードを変更してください。

注：パスワードは第三者に漏れないように十分に注意して管理してください。

本設定の変更後は、Intel AMT WEB-UI ログインパスワードとの連携が取れなくなります。

連携をとるには、「■ 「Intel(R) AMT Configuration」メニュー」の「Network Access State」で「Full Unprovision」を実行してください。

また、必要に応じて「Network Setup」を設定した後に「Network Access State」の「Network Active」を実行してください。

3

第3章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

3.1	トラブル発生時の基本操作	44
3.2	よくあるトラブルと解決方法	48
3.3	それでも解決できないときは	70

3.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

3.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のワークステーションの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合、ACアダプタをポートリプリケータに接続していますか？
- キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

この他、「3.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.50）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

3.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやアプリのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

3.1.3 トラブルシューティングで調べる

「3.2 よくあるトラブルと解決方法」(→P.48) は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

3.1.4 インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>) では、本ワークステーションで発生したトラブルの解決方法を提供しています。

また、富士通製品情報ページ (https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本ワークステーションに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しています。

注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

3.1.5 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。

まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- ▶ 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド (機種別編)』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「2.3.11 ご購入時の設定に戻す」(→P.34)をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 【F12】 キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F12】 キーを離します。

起動メニューが表示されます。

 **POINT**

- ▶ BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。BIOSセットアップについては、「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」(→P.21)をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
- ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド (機種別編)』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ 高速起動が有効になっているためUSBキーボードが使えない場合があります。内蔵キーボードを使って操作してください。

3 【Tab】 キーを押します。

アプリケーションメニューが表示されます。

4 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】 キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

5 【Y】 キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

● **トラブルが検出されなかった場合**

【Enter】 キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7へ進んでください。

● **トラブルが検出された場合**

手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】 キーを押してワークステーションの電源を切ってください。

電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

8 「診断」タブをクリックします。

診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認します。

重要

- ▶ フラッシュメモリディスクを診断する場合は、次の操作を行ってください。
 1. 「ハードディスク」のアイコンを右クリックします。
 2. 表示された画面で、「ディスク0」にチェックが付いていることを確認します。「ディスク0」、「ディスク1」など複数のディスクが表示されている場合は、すべてのディスクにチェックを付けます。
- 「ディスク0」と「ディスク1」が表示されている場合



3. 「OK」をクリックします。

9 「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- ▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「リカバリ起動ディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

10 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

11 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

12 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

13 「はい」をクリックします。

電源が切れ、診断プログラムが終了します。

3.1.6 サポートの窓口相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「3.3 それでも解決できないときは」（→P.70）をご覧になりサポートの窓口相談してください。

3.2 よくあるトラブルと解決方法

3.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」(→P.50)
- 「メッセージが表示された」(→P.51)
- 「画面に何も表示されない」(→P.51)
- 「Windowsが起動しない」(→P.53)
- 「スリープ状態にする時間になっても、モダンスタンバイに移行しない」(→P.52)
- 「Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない」(→P.53)

■ Windows・アプリ関連のトラブル

- 「Windowsにサインインできない」(→P.54)
- 「アプリが動かなくなってしまった」(→P.54)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」(→P.55)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」(→P.55)

□ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」(→P.56)

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」(→P.57)
- 「通信速度が遅い」(→P.57)
- 「持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする」(→P.58)
- 「電源オフ状態からWoL機能によるレジューム(Wake on LAN)ができない」(→P.58)
- 「周辺機器が持っている(記載される)MACアドレスが異なる」(→P.58)

□ フラッシュメモリディスク

- 「フラッシュメモリディスクのパフォーマンスが低下した」(→P.59)

□ デバイス

- 「機器が使用できない」(→P.59)

□ スマートカード（スマートカードスロット搭載機種）

- 「スマートカードが使えない」(→P.59)

□指紋センサー

- 「指紋の登録や認証がうまくいかない」 (→P.60)

□バッテリー

- 「状態表示LEDのバッテリーステータスランプが赤色に短い間隔で点滅している」 (→P.60)
- 「バッテリーが充電されない」 (→P.61)

□ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→P.61)
- 「表示が乱れる」 (→P.62)
- 「画面がくもる、水滴が付く」 (→P.62)

□サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→P.62)
- 「マイクからうまく録音ができない」 (→P.63)

□ポートリプリケータ／ポートリプリケータ (Thunderbolt™ 4接続)

- 「ポートリプリケータおよびポートリプリケータ (Thunderbolt™ 4接続) が動作しない」 (→P.63)

□ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」 (→P.63)
- 「入力中にカーソルが勝手に移動する」 (→P.64)

□USB

- 「USBデバイスが使えない」 (→P.64)
- 「USBデバイスが使えず、「デバイス マネージャー」で確認すると「！」が表示される」 (→P.65)
- 「電源オフUSB充電機能が使えない」 (→P.65)

□カメラ

- 「カメラが映らない」 (→P.66)

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」 (→P.66)

3.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- ACアダプタは接続されていますか？

次のような場合には、ACアダプタを接続してください。

- ・ご購入後最初にお使いになる場合
- ・バッテリー運用時にバッテリーが充電されていない場合
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「バッテリーの残量を確認する」
- ・長期間未使用状態の場合
- ・ポートリプリケータを取り付けている場合は、ワークステーション本体ではなくポートリプリケータのコネクタにACアダプタを接続してください。

- 周辺機器およびACアダプタと内蔵バッテリーパックをいったん取り外してください。

周辺機器およびACアダプタと内蔵バッテリーパックをいったん取り外してください。

2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。

- OFF ボタンを押していませんか？

- ・ H7613の場合

OFFボタンで電源を切った後、最初にワークステーションの電源を入れるときには、必ずACアダプタを接続した状態で電源ボタンを押してください。ACアダプタを接続しないとワークステーションの電源が入りません。

- ・ U7413の場合

OFFボタンを押した後、最初にワークステーションの電源を入れるときには、必ずACアダプタを接続した状態で電源ボタンを押してください。ACアダプタを接続しないとワークステーションの電源が入りません。

- 長期間（2年以上）未使用状態ではありませんか？

バッテリーを長期間使用していないため、過放電を起こしている可能性があります。

「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？

上記の対処で解決しない場合

ACアダプタを取り外してからOFFボタンを押してください。その後電源を入れるときはACアダプタを接続してください。OFFボタンについては『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「3.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.67）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「3.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.67）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

- Hシリーズをお使いの場合

本ワークステーションにセキュアブートのセキュリティ機能のバイパスの脆弱性対応^(※)を行った場合、脆弱なWindows ブートマネージャーの起動ができません。

(※)脆弱性対応について詳しくは、ご購入時に添付の『CVE-2023-24932の脆弱性対応について』をご覧ください。

最新の更新プログラムを適用することで、起動を行えるようにします。

必ず次の手順で、最新の更新プログラムを適用してください。

1. BIOSセットアップの「セキュアブート機能」を「使用しない」に設定する。（→P.29）
2. マイクロソフト社のホームページ（<https://support.microsoft.com/help/5025885>）をご覧ください。になり、起動可能なメディアを更新する。
3. BIOSセットアップの「セキュアブート機能」を「使用する」に設定する。（→P.29）

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 次のことを確認してください。
 - ・画面が暗すぎる
【Fn】 + 【F6】 キーまたは【Fn】 + 【F7】 キーを押して明るさを調節してください。
 - ・ディスプレイのバックライトが消灯している
何かキーを押してください。
 - ・スリープや休止状態になっている
電源ボタンを押してください。
 - ・上記の対処で解決しない場合
電源ボタンを10秒以上押して本ワークステーションの電源を切ってください。
電源が切れた後、10秒以上待ってから電源を入れてください。
 - ・H7613で電源ボタンを押しても電源が切れないときは、ACアダプタを取り外してからOFFボタンを押してください。その後電源を入れるときはACアダプタを接続してください。OFFボタンについては『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。
- なお、保存されていない作業中のデータは失われます。

- 外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。
 - ・ ワークステーション本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
必ずワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入ると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
 - ・ 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、ワークステーション本体の液晶ディスプレイには表示されません。
【Fn】 + 【F10】 キーまたは【Fn】 + 【P】 キーを押して、表示先を切り替えてください。
 - ・ 解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても本ワークステーションの液晶ディスプレイが表示されない場合は、本ワークステーションを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入ると、本ワークステーションの液晶ディスプレイに表示されます。
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「マルチディスプレイ機能」をご覧ください。
お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。
 - ・ ポートリプリケータのコネクタをお使いになる場合は、ワークステーションとポートリプリケータが正しく取り付けられていることを確認してください。
また、ACアダプタはワークステーション本体ではなくポートリプリケータのコネクタに接続してください。



スリープ状態にする時間になっても、モダスタンバイに移行しない

- 電源プランで「ディスプレイの電源を切る」が「適用しない」に設定されていませんか？
上記設定にしている場合は、「コンピューターをスリープ状態にする」の時間を設定していても、モダスタンバイに移行しません。
次の手順で、「ディスプレイの電源を切る」の時間を設定してください。
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
 2. 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
 3. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
 4. 「ディスプレイの電源を切る」のプルダウンメニューから設定する時間を選択します。
 5. 「変更の保存」をクリックします。



Windowsが起動しない

- Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？
 - ・ Webカメラ
 - ・ 手のひら静脈センサー
 - ・ 指紋センサー

認証デバイスを使用してWindowsにサインインしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。

認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。「AuthConductor Client Basic」のアンインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。



Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。
この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを10秒以上押して本ワークステーションの電源を切ってください。
電源が切れた後、10秒以上待ってから電源を入れてください。
- H7613の場合
電源ボタンを押しても電源が切れない場合は、OFFボタンを押して電源を切ってください。
 1. ACアダプタを接続している場合は取り外します。
 2. OFFボタンにクリップの先などを差し込んで押します。
ワークステーションの電源が切れます。
 3. ACアダプタを接続し、電源ボタンを押します。
本ワークステーションが起動します。OFFボタンで電源を切った後、最初に電源を入れるときには、ACアダプタを接続しないとワークステーションの電源は入りません。

重要

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

3.2.3 Windows・アプリ関連のトラブル

ここでは、Windows、アプリに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにサインインできない

- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインインできないときは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。
- 修理などにより、Windows Helloによる認証機能（PIN、指紋認証、顔認証）が使用できなくなる場合があります。

修理後にPIN、指紋認証、顔認証による認証機能が使用できなくなった場合は、次の手順で一度登録してある認証を削除し、再度登録し直してください。

1. 「スタート」ボタン → または (設定) → 「アカウント」の順にクリックします。
2. 「サインイン オプション」をクリックし、サインインする方法から登録し直すWindows Helloの認証（PIN、指紋認証、顔認証）をクリックします。
3. 「削除」をクリックします。

認証が削除されましたら、もう一度認証を登録してください。

Windows Helloについては、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」の「Windows Hello」をご覧ください。

重要

- ▶ 指紋認証、顔認証にはPINが必要です。削除した場合は、先にPINの設定を行ってください。



アプリが動かなくなりました

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったアプリを強制終了してください。

POINT

- ▶ アプリを強制終了した場合、アプリでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ アプリを強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
 - ・ ウイルス対策アプリでフラッシュメモリディスクをスキャンする
定期的にフラッシュメモリディスクをスキャンすることをお勧めします。
 - ・ Cドライブの空き容量が充分か確認する
Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
 - ・ ごみ箱を空にする
 - ・ 不要なファイルやアプリを削除する
 - ・ ディスクのクリーンアップを行う
 - ・ フラッシュメモリディスクのエラーチェックを行う

上記の対処で解決しない場合

ACアダプタを取り外してからOFFボタンを押してください。その後電源を入れるときはACアダプタを接続してください。OFFボタンについては『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

3.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。また、ハードディスクパスワードを忘れると、フラッシュメモリディスクが使えなくなったり、フラッシュメモリディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。いずれの場合も修理が必要となります。ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」(→P.27)をご覧ください。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ (ページングファイル) を設定してください。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がフラッシュメモリディスクに必要です。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得するには、システムドライブに最低でも物理メモリ+1MB (仮想メモリの容量は含まず) の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。
- ▶ 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。
ただし、メモリを大量に消費するアプリを定期的使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

1. 「スタート」ボタン → または (設定) → 「システム」の順にクリックします。
 - Windows 11の場合
 1. 「バージョン情報」をクリックします。
 2. 関連リンクの「システムの詳細設定」をクリックします。
「システムのプロパティ」が表示されます。
 - Windows 10の場合
 1. 「詳細情報」をクリックします。
 2. 関連設定の「システムの詳細設定」をクリックします。
「システムのプロパティ」が表示されます。
2. 「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
3. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
 1. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
 2. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
 3. 「カスタムサイズ」にチェックを付け、「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をクリックします。
「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
4. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
5. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本ワークステーションを再起動します。

■ LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- ポートリプリケータをお使いの場合は、次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーションとポートリプリケータが正しく取り付けられていますか？
 - ・ポートリプリケータのDC-INコネクタにACアダプタを接続してください。
 - ・ポートリプリケータのLANコネクタにLANケーブルを接続してください。
- 「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？
「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
- MACアドレスパススルー機能をお使いの場合は、次の項目を確認してください。
 - ・複数のMACアドレスパススルー機能に対応した周辺機器に、接続していませんか？
 - ・本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。
 - ・本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
同一のDHCPサーバからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。他の周辺機器から接続したい場合は、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションの使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
例：1000Mbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることを確認後、ワークステーション本体を再起動してください。
- 節電機能が働いていませんか？
節電機能に対応したLANデバイスを搭載している機種の場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。
これにより問題がある場合は、『製品ガイド (機種別編)』の「2章 取り扱い」—「有線LAN」をご覧ください。
- ポートリプリケータの接続が不安定になっていませんか？
一度取り外して、接続し直してみてください。状況が改善することがあります。



持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする

- 電波状態によってローミング^(※) がうまく行われず、通信が切断されたり不安定になったりすることがあります。

(※) 同じ設定をもった複数のアクセスポイント間の接続を切り替える仕組み。

複数の無線LANアクセスポイントを同じSSID設定で使用している場合、ワークステーションの設置場所によってはローミングが頻繁に行われ接続が不安定になることがあります。

この場合は、次の手順でローミングの設定を変更し、頻度を調整してください。

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ (→P.6) を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
3. 「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
4. 「ネットワーク アダプター」をダブルクリックして、お使いの無線LANデバイスをダブルクリックします。
デバイス名については、『製品ガイド (機種別編)』の「5章 仕様」—「無線LAN」をご覧ください。
5. 「詳細設定」タブをクリックし、次のプロパティ内の設定を変更します。

プロパティ名	ローミングの積極性	
値 (選択)	最低	ローミングしにくく、現在のアクセスポイントとの接続を維持しようとする
	中	ご購入時の設定
	最高	ローミングしやすく、アクセスポイントの切り替えが発生しやすい

6. 「OK」をクリックします。



電源オフ状態からWoL機能によるレジューム (Wake on LAN) ができない

- MACアドレスパススルー機能をお使いの場合は、パススルー MACアドレスを使用してのWoL機能は使用できません。

MACアドレスパススルー機能は、使用しないでください。



周辺機器が持っている (記載される) MACアドレスが異なる

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」が「使用する」に設定されています。

上記の設定にすると、本ワークステーションが持っているパススルー MACアドレスを使用します。

周辺機器のMACアドレスを使用する場合は、本項目を「使用しない」に設定してください。

■ フラッシュメモリディスク

フラッシュメモリディスクのパフォーマンスが低下した

- リカバリを実行すると、改善できる場合があります。
「データ消去」を実行した後に、リカバリを実行してください。
フラッシュメモリディスク内のデータの消去手順については、「データ消去」（→P.73）をご覧ください。
リカバリ方法については、『リカバリガイド』をご覧ください。

■ デバイス

機器が使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？
次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
システム管理者に確認してください。
 - ・ USB（Webカメラなど内蔵USBデバイスを含む）
 - ・ SDメモリーカード

■ スマートカード（スマートカードスロット搭載機種）

スマートカードが使えない

- スマートカードが正しくセットされていますか？
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.59）

■ 指紋センサー

Q 指紋の登録や認証がうまくいかない

- 指の状態を確認してください。
 - ・指が濡れている
手が濡れていたり汗をかいたりしていると、読み取りがうまくいかないことがあります。
手を拭いてから読み取りを行ってください。
 - ・手が荒れたり乾燥している
手に息を吹きかけたり、ウェットティッシュなどで指紋部分を軽く湿らせてください。また、指をセンサー面に強めに長く押し当ててください。
 - ・指に傷があったり、摩耗して指紋が薄くなっている
登録する指を変えてください。
- センサー部が汚れていませんか？
指紋センサー面が汚れていると指紋を正確に読み取れません。乾いた柔らかい布（メガネ拭きなど）で軽く拭いてください。
また、指紋登録時は短時間に連続してセンサー部に触れるため、指紋の跡が残りやすくなります。1回の指紋取得ごとにセンサー面の汚れの拭き取りが必要になる場合があります。
- 次の場合は指紋の登録や認証ができないことがあります。
 - ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
 - ・指が小さい場合（小学生以下など小柄な方）
- 修理などにより、指紋認証機能が使用できなくなる場合があります。
修理後に指紋認証機能が使用できなくなった場合は、指紋を登録し直してください。

■ バッテリー

Q 状態表示LEDのバッテリーステータスランプが赤色に短い間隔で点滅している

- バッテリーは正しく取り付けられていますか？
バッテリーが正しく充電できないことを示します。ワークステーション本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーパックの交換については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「バッテリー」をご覧ください。

上記の対処で解決しない場合

ACアダプタを取り外してからOFFボタンを押してください。その後電源を入れるときはACアダプタを接続してください。OFFボタンについては『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。



バッテリーが充電されない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびワークステーション本体に正しく接続されているか確認してください。
- **バッテリーが熱くなっていませんか？**
バッテリーステータスランプが点滅します。
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリーの温度が上昇すると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **ワークステーション本体が冷えていませんか？**
バッテリーステータスランプが点滅します。
バッテリーの温度が5℃以下になっていると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
本体が10℃以下になるとバッテリーの充電に時間がかかることがあります。
- **バッテリーの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？**
バッテリーの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリーを保護するため、充電が始まりません。
バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。
- **ご購入直後や修理直後、また長期間（約1ヶ月以上）未使用状態ではありませんか？**
このような場合には、バッテリー運用ができないことやバッテリー残量が正しく表示されないことがあります。
バッテリーを満充電にしてからワークステーションを使用してください。
バッテリー充電時間の目安については、『製品ガイド（機種別編）』の「5章 仕様」—「本体仕様」をご覧ください。

上記の対処で解決しない場合

ACアダプタを取り外してからOFFボタンを押してください。その後電源を入れるときはACアダプタを接続してください。OFFボタンについては『製品ガイド（機種別編）』の「1章 各部名称」をご覧ください。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「3.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.50）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- **省電力状態になっていませんか？**
本ワークステーションには省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
詳しくは『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「省電力」をご覧ください。



表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「解像度を変更する」をご覧ください。正しく設定してください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- アプリを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. アプリを最小化します。
 2. 最小化したアプリを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のアプリ使用時
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
「1.2 インストール」（→P.14）をご覧ください。ディスプレイドライバーを再インストールしてください。



画面がくもる、水滴が付く

- 急激な温度・湿度変化で結露が発生することがあります。
結露が発生した場合は、電源を切り、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いた後にお使いください。設置場所については『取扱説明書』をご覧ください。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ スピーカーの出力はONになっていますか？
スピーカーの出力を確認してください。
 - ・ マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・ 音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？

- ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「サウンド」をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「オーディオ端子の機能を切り替える」をご覧くださいになり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「1.2 インストール」（→P.14）をご覧くださいになり、再インストールしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「サウンド」をご覧ください。
- オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「オーディオ端子の機能を切り替える」をご覧くださいになり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。

■ ポートリプリケータ／ポートリプリケータ（Thunderbolt™ 4接続）



ポートリプリケータおよびポートリプリケータ（Thunderbolt™ 4接続）が動作しない

- ACアダプタが接続されていますか？
ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。また、ACアダプタはポートリプリケータおよびポートリプリケータ（Thunderbolt™ 4接続）に添付のACアダプタをお使いください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない、正しく動作しない

フラットポイント

- フラットポイントが無効に設定されていませんか？
フラットポイントの有効と無効を切り替えるには、【Fn】 + 【F4】 キーを押してください。
【Fn】 + 【F4】 キーを押すたびに切り替わります。
また、マウスとフラットポイントを同時に使用したい場合は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「マウスとフラットポイントを同時に使用する」をご覧くださいになり、設定を変更してください。

- **手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？**

フラットポイントから手のひらや袖口を十分に離してください。

それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。フラットポイントの設定方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「フラットポイントの設定を変更する」をご覧ください。

□ マウス

- **マウスは正しく接続されていますか？**

・電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。

- **オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？**

・オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

- **次のようなものの上で操作していませんか？**

- ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
- ・光沢のあるもの
- ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
- ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



入力中にカーソルが勝手に移動する

- **手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？**

フラットポイントから手のひらや袖口を十分に離してください。

それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。フラットポイントの設定方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「フラットポイントの設定を変更する」をご覧ください。

■ USB



USB デバイスが使えない

- **ケーブルは正しく接続されていますか？**

- **ポートリプリケータのコネクタをお使いの場合、ワークステーションにポートリプリケータが正しく取り付けられていますか？**

また、ポートリプリケータのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていますか？

- **USB デバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？**

USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。

- **USB デバイ스에 不具合はありますか？**

USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。

ワークステーションを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。

- **「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.59）**

- **対応していないUSBデバイスを接続していませんか？**
USBコネクタには、対応した規格のUSBデバイスの接続をお勧めします。
お使いの機種種のUSBコネクタの仕様については、『製品ガイド（機種別編）』の「5章 仕様」－「本体仕様」をご覧ください。
- **長いUSBケーブルを使用していませんか？**
長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。
この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。



USBデバイスが使えず、「デバイス マネージャー」で確認すると「！」が表示される

- **デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？**
必要なドライバーをインストールしてください。
- **「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.59）**



電源オフUSB充電機能が使えない

- **電源オフUSB充電機能を無効にしていませんか？**
電源オフUSB充電機能の設定変更はBIOSセットアップで行います。設定変更の方法については、「電源オフUSB充電機能の設定を変更する」（→P.31）をご覧ください。
- **ACアダプタを接続していますか？**
BIOSセットアップの「USB充電設定」－「パソコン電源オフ時の動作」で「充電する（ACのみ）」を選択していて、ACアダプタを接続していない場合は電源オフUSB充電機能が使えません。ACアダプタを接続するか、BIOSセットアップの「USB充電設定」－「パソコン電源オフ時の動作」で「充電する（AC/バッテリー）」を選択してください。
- **バッテリー残量が12%以下になっていませんか？**
バッテリーステータスランプでバッテリーの残量を確認し、バッテリー残量が12%以下の場合は、ACアダプタを接続してください。
バッテリー残量の確認方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。
- **電源ボタンを10秒以上押して、本ワークステーションの電源を切りましたか？**
電源ボタンを10秒以上押して電源を切った場合、電源オフUSB充電は動作しません。いったん本ワークステーションを起動してください。
- **周辺機器によっては、電源オフUSB充電を使用できない場合があります。USBデバイスのご購入元にご連絡ください。**

■ カメラ



カメラが映らない

対象 Webカメラ搭載機種

- プライバシーカメラシャッターが閉じていませんか？
プライバシーカメラシャッターが閉じている場合は、シャッターを左に動かして開けてください。

■ その他



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」、「キーン」というワークステーション本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。
BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」に「ハードウェア省電力機能」が表示されている機種の場合、「ハードウェア省電力機能」配下にある項目の設定を変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

3.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本ワークステーションが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。エラーメッセージ一覧には、お使いのワークステーションに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。

本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断 (POST) で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
記号	
<F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更できます。
N	
NVRAM データが正しくありません。	NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSが見つからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。
さ	
システムは使用できません。	BIOSパスワードまたはBIOS生体認証に失敗した場合に表示されます。 この場合、電源ボタンを長押ししてワークステーションの電源を切ってください。
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。
は	
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。 日付と時刻の設定を確認してください。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 日付と時刻を確認し、電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。

BIOS イベントログは、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。

BIOS セットアップメニューについては、『BIOS セットアップメニュー一覧』をご覧ください。

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタなしで起動されました。
C	
CD/DVDドライブの初期化エラー	CD/DVDドライブの初期化エラーです。繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
P	
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した (ヘッダー情報)	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
診断プログラムが異常を検出 (詳細コード=nnnnnnnn)	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。
マルチビットECCメモリエラーが発生した	訂正不可能なメモリエラーが検出されました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。

3.3 それでも解決できないときは

3.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧ください。弊社までお問い合わせください。

■ アプリに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のアプリの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧ください。ご購入元へお問い合わせください。

● マカフィー リブセーフ

マカフィー株式会社

カスタマーサポート

電話：0570-000-500

受付時間：9:00～21:00（年中無休）

URL：<https://www.mcafee.com/support/>

チャット：<https://www.mcafee.com/support/?page=shell&shell=contact-support>

60日間の試用期間中、サポートいたします。

● iフィルター

デジタルアーツ株式会社

サポートセンター

電話：0570-00-1334

受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く）

URL：<https://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム：<https://www.daj.jp/ask/>

30日間の試用期間中、サポートいたします。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **フラッシュメモリディスクのデータを消去していますか？**
ワークステーション本体に搭載されているフラッシュメモリディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。ワークステーションを廃棄するときは、フラッシュメモリディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
フラッシュメモリディスク内のデータ消去については、「付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.72）をご覧ください。
- **本製品の廃棄**
 - ・法人、企業のお客様へ
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/>）をご覧ください。
 - ・個人のお客様へ
本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 使用済みバッテリーについて

- **使用済みバッテリーは、次のように取り扱ってください。**
 - ・リチウムイオン電池のバッテリーパック、バッテリーユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
 - ・使用済みバッテリーは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
 - ・バッテリーを火中に投げると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。
バッテリーの仕様については、『製品ガイド（機種別編）』の「5章 仕様一覧」－「本体仕様」またはバッテリーのマニュアルをご覧ください。
- **使用済みバッテリーを廃棄する場合は、次のように行ってください。**
 - ・法人・企業のお客様へ
弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/>）をご覧ください。
 - ・個人のお客様へ
使用済みバッテリーは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。
詳しくは、一般社団法人JBRCのホームページ（<https://www.jbrc.com/>）をご覧ください。
弊社は一般社団法人JBRCに加盟し、リサイクルを実施しています。



Li-ion

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、ワークステーションを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

ワークステーションの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意

ワークステーションは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。

これらのワークステーションの中のフラッシュメモリディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このフラッシュメモリディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このワークステーションのフラッシュメモリディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、フラッシュメモリディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、フラッシュメモリディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

■ eSIM プロファイルに関する注意（無線WAN搭載機種）

ワークステーションを譲渡・売却、もしくは廃却する場合は、eSIM プロファイルを削除してください。

なお、eSIMで契約されているデータ通信契約を他のデバイスで利用予定が無い場合は、ご契約の通信事業者／キャリア（MVNO含む）にお問い合わせのうえ、契約解除手続きを行ってください。eSIM プロファイル削除方法については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

データ消去

本ワークステーションのフラッシュメモリディスクのデータは、付属の「ERASE DISK」で消去します。

ただし、特殊な設備や特殊なアプリの使用によりデータを復元される可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- ワークステーション本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、データ消去を実行する前に必ず取り外してください。

POINT

- ▶ データ消去実行時にステータスレポートを書き込む場合は、USBメモリ（FAT32ファイルシステム）を準備してください。
 - ▶ ステータスレポートとは、ワークステーションの型名や製造番号、データ消去を実行した日時などの情報が記録されたファイルです。
ステータスレポートを書き込まなくても、データ消去は正常に完了します。
お好みで書き込みを行ってください。
- 必要なデータは事前にバックアップしてください。
 - データ消去を実行するとフラッシュメモリディスクに格納されているデータ（リカバリデータなど）はすべて消去されます。
また、Windowsが起動できなくなるので、再度ワークステーションを使用する場合はリカバリの実行が必要となります。
必要に応じてデータ消去の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
 - 本ワークステーションで「ERASE DISK」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
 - データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリディスクが故障する可能性があります。

■ データ消去方法

「ERASE DISK」を実行するには、ワークステーションの電源を完全に切った後、BIOSセットアップを起動します。

BIOSセットアップで管理者パスワードを設定し、「ERASE DISK」を開始します。

□ BIOSセットアップを起動する

1 本ワークステーションの電源を完全に切ります。

電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。

2 【F2】キーを押したまま、ワークステーションの電源を入れます。

3 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。

BIOSセットアップ画面が表示されます。

パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.26）してください。

指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。

4 「セキュリティ」メニューを選択します。

□ 管理者パスワードを設定する

すでに管理者パスワードを設定している場合は、「□ ERASE DISKを実行する」へ進んでください。

1 「管理者用パスワード設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

2 「新しいパスワードを入力してください」にパスワードを入力します。

「現在のパスワードを入力してください」と表示された場合は、すでに管理者パスワードが設定されてます。【Esc】キーを押して、「□ ERASE DISKを実行する」へ進んでください。

3 「新しいパスワードを確認してください」に同じパスワードを入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが設定されます。

4 【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ 管理者パスワードは、ERASE DISKを実行するために必要です。
管理者パスワードを忘れると、ERASE DISKの実行や管理者パスワードの変更・削除などができなくなります。管理者パスワードはメモに控えるなど、忘れないようにしてください。
- ▶ 入力できる文字については、「2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.24）をご覧ください。

□ ERASE DISKを実行する

- 1 「データ消去（ERASE DISK）」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 2 「次回起動時にERASE DISKユーティリティが起動します。」と表示されたら、「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「終了」メニューを選択します。
- 4 「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 5 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
ワークステーションが再起動し、ERASE DISKが起動します。
- 6 管理者パスワードを入力して、【Enter】キーを押します。
「ご使用条件」が表示されます。内容をよくお読みください。

重要

- ▶ 「管理者パスワードが設定されていません。」というメッセージが表示された場合は、管理者パスワードの設定が完了していません。【Enter】キーを押して、管理者パスワードを設定してください。
- ▶ 「本ユーティリティは、ACアダプタが接続された状態でのみご使用できます。」というメッセージ表示された場合は、【Enter】キーを押して、ACアダプタの接続を確認してください。
ACアダプタが接続されている状態で、「□ BIOSセットアップを起動する」（→P.74）からやり直してください。

- 7 【Y】キーを押します。
認識したストレージが表示されます。
- 8 【1】キー → 【Enter】キーの順に押します。
「USBメモリにステータスレポートを書き込みますか？」と表示されます。
- 9 次の操作を行います。
 - ステータスレポートの書き込みを行わない場合
 1. 【N】キーを押します。
 - ステータスレポートの書き込みを行う場合
 1. 【Y】キーを押します。
「FAT32ファイルシステムのUSBメモリを挿入してから、Enterキーを押してください」と表示されます。
 2. FAT32ファイルシステムのUSBメモリを挿入して、【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ ステータスレポートとは、ワークステーションの型名や製造番号、データ消去を実行した日時などの情報が記録されたファイルです。
ステータスレポートを書き込まなくても、データ消去は正常に完了します。
お好みで書き込みを行ってください。

「HDD消去プロセスの最後に追加されるオプション」と表示されます。

10 お好みのオプションの番号を入力して、【Enter】キーを押します。

HDD消去プロセスの最後に追加されるオプションでは、選択した項目に合わせて次の処理が行われます。

- ・ [1] を選択：HDD消去が完了するとBIOS セットアップで設定した管理者パスワード、ユーザーパスワードを削除します。
- ・ [2] を選択：BIOS セットアップの設定を初期値に戻します。
- ・ [3] を選択：データ消去後、自動的にシャットダウンします。
- ・ [4] を選択：オプションの追加はありません。ERASE DISKを終了します。

重要

- ▶ オプションは複数選択することができます。
例えば、[1] と [2] のオプションを選択する場合は、【1】キー → 【,】（コンマ）キー → 【2】キー → 【Enter】キーの順番に押します。
- ▶ BIOSセットアップの管理者パスワードを削除したい場合は、[1] を選択することをお勧めします。
- ▶ オプションで [3]（データ消去後、自動的にシャットダウン）を選択した場合は、データ消去が完了すると自動的にワークステーションの電源が切れます。
[3] 以外を選択した場合は、オプションの処理後に再起動しますが、Windowsは起動しないため「起動可能なデバイスが見つかりませんでした。」というメッセージが表示されますので、[3] も一緒に選択することをお勧めします。

「選択したハードディスクを本当に消去しますか」と表示されます。

11 消去しても問題が無ければ、【Y】キーを押します。

データ消去が開始されます。完了するまでしばらくお待ちください。

データ消去が完了すると、「ユーティリティを終了するにはEnterキーを押してください」と表示されます。

12 【Enter】キーを押します。

以上でデータ消去は終了です。

再度、ワークステーションを使用する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

重要

- ▶ 再起動してしまった場合は、電源ボタンを10秒以上押して、電源を切ってください。

付録2 Windowsの新規インストール

サポートOSおよびボリュームライセンス用OSを新規にインストールする方法を説明します。手順どおりにインストールすることで、ワークステーションが正常に動作します。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、フラッシュメモリディスクのすべてのデータが削除されます。
必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- ドライバーはすべてインストールしてください。インストールしないとワークステーションが正常に動作しません。
- 別売の外付け光学ドライブを接続してください。

新規インストールの準備

- BIOSの設定をご購入時の状態に戻す
- セキュリティチップをクリアする（→P.29）
- ディスクを用意する
 - 正規のWindows 11またはWindows 10のインストールディスク
 - ドライバーズディスク

重要

- ▶ 「ドライバーズディスク」がお手元にはない場合は、事前にディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

- フラッシュメモリディスクデータを消去する（→P.73）

新規インストール手順

1 Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 【F12】 キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
2. ビープ音が鳴ったら、【F12】 キーを離します。
起動メニューが表示されます。
3. インストールディスクをセットします。
4. CD/DVD Driveを選択して【Enter】 キーを押します。
 - ・「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
BIOSの設定が誤っている可能性があります。設定を確認してください。
 - ・「CD/DVDの起動モードを選択してください」と表示された場合は、「UEFI Mode」を選択してください。「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示されたら、何かキーを押してください。

2 画面の指示に従って、Windowsのインストールとセットアップを行います。

操作の途中で次の画面が表示されます。画面が表示されたら、次の操作を行ってください。

POINT

- ▶ フラットポイントおよびタッチパネルが動作しない場合は、USBマウスを接続して操作してください。

● 「インストールの種類を選んでください」が表示されたら

1. 「カスタム：Windowsのみをインストールする」をクリックします。
新規インストールはこちらを選択してください。

● 「Windowsのインストール場所を選択してください」が表示されたら

Windowsをインストールするパーティションを作成します。

1. 「新規」をクリックし、「適用」をクリックします。
複数のパーティションが作成されます。
2. 「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「フォーマット」をクリックします。
選択したパーティションがフォーマットされます。
3. 「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「次へ」をクリックします。
Windowsのインストール場所を設定します。

Windowsのインストールが始まります。途中何度か再起動しますが、そのままお待ちください。設定画面が表示されたら、画面に従って進めてください。

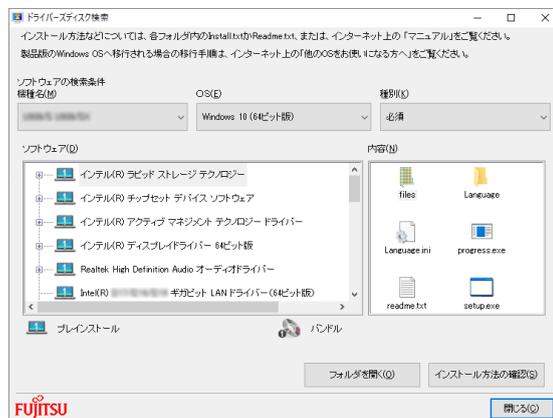
しばらくするとデスクトップ画面が表示され、インストールとセットアップが完了します。

3 ドライバー、アプリ、ユーティリティをインストールします。

1. 「ドライバズディスク」をセットします。
「ドライバズディスク検索 (DRVCDSRC.exe)」が起動します。

POINT

- ▶ 「ドライバズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
 3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。
 - ▶ フラットポイントおよびタッチパネルが動作しない場合は、USBマウスを接続して操作してください。
「ドライバズディスク」から「インテル(R) シリアル IO ドライバー」をインストールするとフラットポイントおよびタッチパネルが動作します。
2. 「ソフトウェアの検索条件」の「機種名」からお使いの機種を、「OS」からお使いのOSをそれぞれ選択します。
 3. 「種別」から「必須」を選択し、「ソフトウェア」に表示されたドライバーを上から順にすべてインストールします。
必ず上から順にインストールしてください。インストール方法については「Readme.txt」をお読みください。



(表示内容は機種や状況により異なります)

4. 「種別」から「任意」を選択し、「ソフトウェア」から必要なドライバー、アプリ、ユーティリティをインストールします。
 - ・ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせてインストールしてください。
 - ・プレインストールと記載されているソフトウェアは、インストールすることをお勧めします。
 - ・インストール方法については「Readme.txt」をお読みください。

この後は、お使いの状況によって操作してください。

- ボリュームライセンス用OSでお客様専用マスタを作成する場合
富士通製品情報ページ内にある「お客様専用マスタを作成する場合の注意事項」（<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/master/>）をご覧ください。
- サポートOSをインストールした場合
ストアアプリをインストールしてください。
ストアアプリのインストール後、「■ 最新の状態に更新する」(→P.80)へ進んでください。

重要

- ▶ ストアアプリは「ドライバーズディスク」に格納されていませんので、Microsoft Storeからインストールする必要があります。対象のアプリについては、「1.1 アプリの紹介」(→P.10)でご確認ください。
また、各ストアアプリのURLやインストール時の注意については、「ドライバーズディスク」内にある「Readme.txt」をご確認ください。

■ 最新の状態に更新する

Windowsおよび、ドライバーやユーティリティは常に最新の状態にしておく必要があります。

□ Windows Updateを実行する

Windowsを最新の状態に更新します。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

重要

- ▶ ご利用中のWindowsのバージョンに対応した最新の更新プログラムをインストールしてください。
なお、問題が発生してWindowsの操作ができなくなった場合は、再度Windowsを新規インストールしてから、最新の更新プログラムをインストールしてください。
- Windows 11 更新履歴
<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/windows-11/バージョン-22h2-更新履歴-ec4229c3-9c5f-4e75-9d6d-9025ab70fcce>
- Windows 10 更新履歴
<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/windows-10-の更新履歴-8127c2c6-6edf-4fdf-8b9f-0f7be1ef3562>
- ダウンロードURL（このURLは変更されることがあります）
<https://www.catalog.update.microsoft.com/Home.aspx>
- インストール方法
 1. 管理者アカウントでサインインします。
 2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
 3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
修正プログラムが実行されます。
この後は、表示された画面に従って操作してください。

□ ドライバーおよびユーティリティを更新する

富士通製品情報ページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて、最新版のドライバーやユーティリティが提供されている場合があります。

システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。

□アップデートナビを有効にする

アップデートナビを有効にするために、一度アプリを起動し、自動更新通知・常駐設定で「自動更新通知をする」をしてください。

その後、ドライバーやアプリが更新されると、通知が表示されます。

CELSIUS

製品ガイド（共通編）
B5FL-0021-02 Z0-02

発行日 2023年7月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。